

長畝ふるさと通信

【2013年4月号】

■ 種まきから育苗作業を詳しくお伝えします。

(1) 浸種から催芽

温湯消毒された種もみは約2週間、水に浸けられ、冬眠から目を覚まします。このタンクに水を張って種もみを入れ、催芽機で水温30度を保ちます。すると2~3日でプクッと種もみから芽が出てきます。



(2) 播種

① 苗箱(30cm×60cm)に肥料の入った土を約3kg程度敷き詰め、水を灌水します。② 種を約140g程度、均一に播いていきます。③ 再び土を約1.2kg程度被せていきます。④ 播種された苗箱は約5kg、パレットに積まれ、フォークリフトで育苗機の中へと運ばれます。⑤ 育苗機は密閉され、蒸気で庫内は30度に保ち3日間⑥ 白い芽が1cmほど頭を出してきます。



(3) 苗出し

① 白い芽が出た苗箱はビニールハウス(1棟が約70mとビッグサイズで、2200箱ほどの苗箱が収容されます)へと運ばれ、1枚ずつ並べ水分の蒸発を防ぐシートを被せます。② 3日経って被覆シートをはぐると、白かった芽は鮮やかな緑色に変身し、苗の姿へと変わります。

①



②



3月中旬に種もみの浸種を開始して、4月4日が1回目の播種、催芽した苗をハウスに運んだのが4月8日、4月12

日がこの状態です。この作業を計5回繰り返し、4月末までに約19,000箱の苗箱をつくります。今年はお天気の良い日が続かず気温がなかなか上がらないので、苗の生育が平年に比べて遅いようです。

田植えは例年通り5月連休明け辺りからの予定です。田んぼでは畦が塗られ、水が満々と蓄えられ田植えを待っています。今年もおいしいお米を作ります！



■ 今年もお祭りは晴天なり！

今年のお祭りも晴天でした。いつもなら満開の桜は5分咲きと言ったところでしたが、青年会の兄ちゃん達は朝から全開(全壊?)モードで酒瓶が次々と空いていきました。

のぼりには「昭和9年寄贈」と書かれており、その当時から毎年のように春の美空にはためいていたのでしょう。あれから約80年経った今でも現役で祭りを見守ってくれています。

